

Buddycomの導入理由

“メールや電話などで行っていた 情報共有の時間が短縮しました”

自治体

水道管理事務所・発電所



長野県企業局では働き方改革の一環として、利便性・機動性の向上を目的に業務用スマートフォンを導入する際に、音声による情報連携をBuddycomにリプレイスしました。今までは業務用無線を利用して緊急時に連絡を取り合っていました。Buddycomにリプレイス後、使い方の質問や困っているような報告はなく、問題なく利用できています。

業務用無線とBuddycomの使い方がほとんど同じなので、ボタン一つで一斉に発話できる簡単さが、現場の方々にすぐに浸透した点の一つだと思います。Buddycomを使ってグループに一斉発話できるようになったので、メールや電話で連絡するよりも早く大人数へ情報を共有することができ、生産性の向上につながりました。

また、Buddycomのチャットにある画像共有機能をよく利用しています。写真で確認することで現場の状況をより詳しく把握し、的確な指示を出すことが可能になりました。Buddycomは無線機のような免許が不要なのでだれでも使える点が良いですね。免許取得者、免許を取得するための勉強時間、免許更新費が不要になったことでコストが削減されました。



導入前の課題

現場と事務所間の遠隔コミュニケーションとして固定電話、MCA無線機などを利用していましたが、機器の更新や免許の更新などでコスト・時間がかかっていました。また、県南北に現地機関が配置されているため、縦断的な情報連携が課題となっていました。

導入した理由

職員全員にスマートフォンが貸与されたため、それを機にスマホ導入プロポーザルに電話や無線機に代わるアプリの導入を相談をしたところ、Buddycomを紹介していただきました。5ヶ月間ほどかけて他社アプリと比較・検証し、多機能なBuddycomの本格導入に至りました。



現場の水道管理事務所・発電所間でリアルタイムに会話し迅速な対応が実現

【水道管理事務所における施設の維持管理・危機管理】

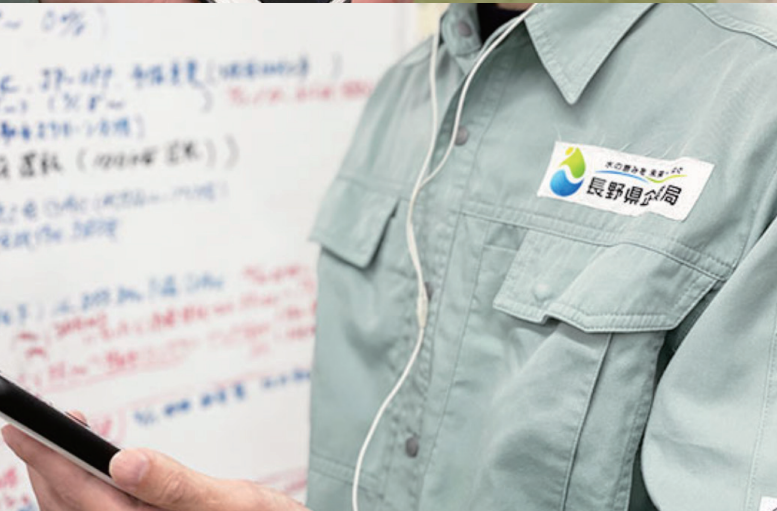
日常的な施設の維持管理や危機管理において、施設に異常や事故があったときの連絡手段としてBuddycomを利用しています。

例えば、水道管が破裂してしまった現場に到着したスタッフが、現場の状況をBuddycomを使い管理事務所へ報告し状況を共有します。

報告の仕方はBuddycomのグループ通話だけでなく、写真を共有する機能を使うことで現場の現在の状況をリアルタイムに確認できます。報告を受けた事務所では、断水や濁った水が出てしまう可能性を考慮し地域住民に知らせる必要があります。Buddycomのマップ機能を使ってその現場の近くにいるスタッフに指示を出し、地域住民のお宅へ訪問するよう指示を出しています。どこに誰がいるか瞬時にわかるのでとても便利です。

【発電所の危機管理】

故障や異常が起きた際に現場から事務所への伝達手段としてBuddycomを利用しており、まず現場を確認したスタッフが事務所へ連絡をします。どこで何が起きているのか、復旧にどれくらいかかるのかを事務所に報告し、事務所スタッフが対応策を現場スタッフに伝えます。また、中央制御所と呼ばれる全ての発電所を一括で管理している場所があり、各発電所間の連絡もBuddycomを利用して行っています。インターネットを介しているので県内北から南までどこでも利用できることが魅力です。



導入検討中の方へメッセージ

Buddycomはスマートフォンがあれば誰でも簡単に使えるため、導入のハードルが低いと思います。すでにスマートフォンが導入されている企業におすすめできます。

